



## 『自分に負けない心』

千葉県

小糸剣友会

小学6年生

森川寛士

ぼくは、5才から剣道を始めました。ぜん息だったぼくが丈夫になるようにと、父が続けている剣道に、誘ってくれたのがきっかけです。

それから7年。今年はぼくにとって、小学生での剣道、最後の1年になります。

その間、ぼくはたくさんの時間を剣道と共に過ごしてきました。そして、数多くの事を剣道から学びました。正しい礼儀作法や、あいさつ。仲間とのチームワーク。両親への感謝の気持ち。何事もあきらめず、続ける事の大切さなどです。教えて頂いたおかげで、ぼくは小学校でも、返事や授業中の姿勢を、ほめられるようになりました。剣道のけい古も、休まず続けているからか、学校も1年生から、一日も休んだ事はありません。これも、続ける事の大切さの実践の、結果だと思います。

ぼくが、剣道と出会ったからこそ学べたと、強く思っている事があります。それは、『心を作る事の大切さ』です。

剣道を習い始めてからの数年は、仲間と会えたり、先生方や先輩達から教えてもらう事が楽しくて、自分の心の弱点など、考えてもいませんでした。ぼくが、自分の剣道と心のつながりを考え出したのは、4年生の頃からです。

そのころのぼくは、負ける事が怖くなって試合でも自分から動けなくなりました。それが原因で結果も出なくなり、けい古も集中出来なくなっていました。このまま続けていていいのか。チームの仲間に、迷惑をかけているんじゃないか。ぼくは、そんなことばかり考えていました。先生は、「意識が足りない。」「けい古に集中して、もっと心を強くしろ。」と、教えてくれました。でも、その時のぼくは、考えれば考えるほど、体が縮こまってうまくいかず、どうしていいのかわからなくなっていました。それでも先生は、そんなぼくに根気強く、時には厳しく、何度もぼくに足りない心の大切さを指導し続けてくれました。先輩方や仲間のみんなも、ぼくをはげまし続けてくれました。父や母も、何も言わずに見守り、ぼくを信じ続けてくれました。

そして、わかったんです。ぼくは、一人で戦っているんじゃない。コートの中では対一だけど、ぼくの背中にはチームの仲間や先生方、父と母や保護者のみなさん。小糸剣友会のみんなが応援してくれている事を。そして戦っている相手も、きっとぼくは同じ気持ちだと思いました。その時、ぼくは心の大切さに、気づけたのだと思います。

6年生になった今も、まだまだぼくの剣道は勝ったり負けたりです。でも、負けるのが怖い気持ちは、もうなくなりました。どんな結果の試合でも、必ず次につなげようと思っています。

小学生最後の1年。ぼくは、今まで支えてくれた人達のために、チームの仲間と一つになって、心の底から「やったぞ。」とほこれるような結果を、一つでも残していきたいと思っています。

そして、ぼくが大人になって子供が出来た時、今の父とぼくのように、一緒に剣道をしながら、心を育てていけたらと、思います。

「負けないぞ。自分に。」